

令和3年度文京区内大学学長懇談会  
議事録

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

令和3年度文京区内大学学長懇談会  
会議次第

日時：令和4年1月24日（月） 10:30～12:00

場所：オンライン開催

- 1 開会挨拶（文京区長）
  
- 2 報告事項  
大学学長講演会実績及び区内大学と区との連携実績
  
- 3 懇談・意見交換  
テーマ『大学における温室効果ガス排出削減について』
  
- 4 閉会

○アカデミー推進部長 皆様、おはようございます。

定刻となりましたので、ただいまから「令和3年度文京区内大学学長懇談会」を始めさせていただきます。

本日はお忙しいところ、皆様に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、アカデミー推進部長の高橋です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の懇談会は、2年ぶりの開催となりますが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況に鑑み、急遽、オンラインでの開催に変更させていただきました。学長懇談会においては初めての形式となりますので、至らぬところもあるかと存じますが、どうか御了承いただくようお願いいたします。

それでは、お手元の次第を御覧ください。開会挨拶、報告事項、懇談・意見交換の順に進めさせていただきます。

それでは、会議に先立ちまして、成澤区長より御挨拶申し上げます。

○区長 皆さん、おはようございます。区長の成澤でございます。

本日は、学長の先生方にはお忙しいところ、お時間を差し繰りいただきましてありがとうございます。

2年ぶりの学長懇談会ということでございまして、昨年も大変厳しい環境下、緊急事態宣言下でしたので中止にせざるを得ませんでした。大学でも現在、ハイブリッド型の授業等が進められていると思いますけれども、私どもも会議がこのような形でできるような体制が整いましたので、今年はオンラインでの開催ということです。本当ですと、諸先生方とお会いして様々な意見交換ができれば大変ありがたいのですが、このような形になりまして御協力をいただきましたことにも感謝を申し上げたいと思います。

この新型コロナウイルスの感染拡大は、先生方の教育の実践の現場でも大変な影響を与えていると思いますが、私どもでも同様の状況でして、現在、オミクロン株が非常に蔓延している状態ですけれども、ワクチンを打っていない小学生たちにもかなりの確率で広がりつつあると。学級閉鎖等もいろいろな学校で起きているという状況になっております。

そして、これは社会経済情勢にも当然影響を与えているわけで、ふだんですと学生さんたちでにぎわっている大学の周辺の飲食店等は閑古鳥が鳴いてしまうということですし、ハイブリッド型の授業が進めば、それだけ人の行き来がキャンパス内でなくなるので同様のこととなります。

また、実は文京区の人口動態にも大きな影響を与えていて、特に留学生が再入国できないという状況になっていることで、人口減の多くは留学生によるところが非常に大きいという影響も出ているわけでございます。

このように、私ども地域にとっても大きな影響がありますので、皆さんと力を合わせて何とか乗り切っていきたいと思っているところであります。

昨今、地球温暖化の問題が非常に大きなテーマになっております。気候変動の影響と思

われる災害が世界各地でも頻発しているということもあって、それぞれが力を合わせてその問題に対応していくことが必要となります。

本区では、令和2年3月に文京区地球温暖化対策地域推進計画というものを改定いたしまして、脱炭素のまちの実現を掲げて、区の主体的な取組とともに、事業者や区民に向けた5つの分野別の取組を示しております。現在、区有施設での再生可能エネルギー100%の電力の導入や、カーボンオフセットの制度を導入して、事業者や区民の取組につながるよう努めているところです。

多くの大学が立地する本区の特徴、私は、区内最大の産業は大学であるというふうに着実に申し上げておりますけれども、そのような特徴を踏まえまして、本日の懇談会は、地球温暖化対策に関する各大学の取組を共有する場とさせていただきたいと思っております。

また、共有されたことを契機に、さらなる取組の推進につなげることができればと考えているところでございます。後ほど、先生方の御意見等を拝聴させていただくことができればと思っております。

限られた時間ではございますが、実りの多い会議となりますように御協力をお願い申し上げて、冒頭の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○アカデミー推進部長　ここで、本日出席しております区の職員を御紹介させていただきます。

まず、佐藤副区長でございます。

加藤教育長でございます。

大川企画政策部長でございます。

新名企画課長でございます。

鶴沼資源環境部長でございます。

大野環境政策課長でございます。

細矢アカデミー推進課長でございます。

どうぞよろしくお願いたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

なお、本日の懇談会につきましては、区ホームページへの掲載等がございますので、スクリーンショットの撮影、また、会議録作成のための録音をさせていただきたいと存じますので、御了承のほどよろしくお願いたします。なお、会議録につきましては、案の段階でお目通しいただくことを予定しております。重ねてお願申し上げます。

それでは、アカデミー推進課長より、「大学学長講演会実績及び区内大学と区との連携実績」について、御報告させていただきます。

○アカデミー推進課長　それでは、お手元の資料により説明させていただきます。

まず初めに、「資料1　大学学長講演会　開催実績」を御覧ください。

毎年、各大学の学長の皆様に御協力をいただき開催しております学長講演会につきまして、今年度は、日本女子大学の篠原学長に御講演をいただきました。新型コロナウイルス

の影響を受け、本年度はオンラインでの実施となりましたが、大変好評であったと受講者の方々から伺ってございます。御多用のところ、誠にありがとうございました。

続きまして、「資料2 令和3年度 文京区内大学と区の連携実績」を御覧ください。

令和3年度は、合計90事業について、各大学の皆様と連携させていただいております。

そのうち24件は、残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止、あるいは中止となりました。

実施しました連携事業の幾つかにつきまして御紹介させていただきたいと存じます。

資料2の3ページを御覧ください。本区ゆかりの文人である森鷗外に関係する事業として、複数の展覧会を開催したほか、書簡集の調査・研究を実施いたしました。その際、跡見学園女子大学様、東京大学様、日本女子大学様に御協力をいただきました。本年は、森鷗外の没後100年となる節目の年でございます。多くの区民に森鷗外を身近に感じてもらうとともに、ゆかりの国や自治体との相互交流を深めることによって、森鷗外を通じた本区の魅力を区内外に発信してまいりたいと存じます。

次に、14ページ、項番3番「新型コロナウイルス感染症対策における保健所業務継続のための応援派遣」を御覧ください。本事業は、新型コロナウイルス対応で業務量が急激に増加した保健所に対して、東京大学様、東京医科歯科大学様から看護師等専門職の方を応援派遣いただいたものでございます。また、文京学院大学様にはワクチン接種会場の御提供をいただきました。様々な大学の皆様に本区の新型コロナウイルス感染症対策に御協力賜り、改めて深く御礼申し上げます。

このほか、資料に記載のとおり、各大学の御協力の下、数多くの事業を実施してまいりました。今後も引き続き、連携を図り、様々な事業に取り組んでまいりたいと存じます。

大変雑駁ではございますが、以上で今年度の「大学学長講演会実績及び区内大学と区の連携実績」の御報告とさせていただきます。

○アカデミー推進部長 説明は以上でございます。

それでは引き続き、意見交換に入らせていただきます。

本日のテーマは、『大学における温室効果ガス排出削減について』でございます。

テーマ、あるいは先ほど御報告しました令和3年度の連携実績などについて、大学ごとに御意見を賜りたいと存じます。

大変恐縮でございますが、時間の都合もございいますので、お一人様3分程度でお願いできればと存じます。御発言の際は、画面の左下にありますZoomのミュートを解除してから御発言ください。また、御発言が終わりましたら再度ミュートにさせていただきますようお願いいたします。

それでは、名簿の順番に沿って御意見を伺ってまいります。

跡見学園女子大学副学長、曾田様、お願いいたします。

○跡見学園女子大学 おはようございます。跡見学園女子大学の副学長をしております曾田と申します。学長の笠原に代わって出席させていただいております。

トップバッターということでちょっと緊張しておりますが、短くということでございますので、短く御報告させていただきます。

この会議に出席するに当たりまして、全私学連合の実施しておられる調査、CO<sub>2</sub>削減地球温暖化対策のための取組調査の直近の調査への本学の回答を確認してまいりました。おおむねどの項目についても取組をしているということでありました。再生可能エネルギーの利用というのはちょっと本学ではまだやっていないということなのですが、それ以外の項目についてはおおむね取組をしているということでございます。

2020年度の実績を見ますと、それまでの年に比べまして2割減ということで、これはやはり遠隔授業によってキャンパスに学生が来ないという影響が現れた形になっております。

今後についてですけれども、やはり大学でございますので、それぞれの特色ある学部学科構成を生かして、専門知をどのように社会に提供していくかということだと思います。本学は生活環境マネジメント学科という学科がございますので、衣食住、すなわち、ファッション、フード、あるいは住まいやまちづくりということで、それが生活とビジネスと地球環境というのがダイレクトにつながっているということで研究、教育を進めているところでございますので、これを学科だけではなく、どうやって大学としての取組にしていくかということが今後の課題かと思っております。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、お茶の水女子大学学長、佐々木様、お願いいたします。

○お茶の水女子大学 おはようございます。

お茶の水女子大学は、カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション、大学間のネットワークでございますけれども、それに参加するとともに、国連大学が主体となっておりますSDG大学連携プラットフォームにも参画し、SDGsに配慮した安心・安全な地球環境にやさしいサステナブルキャンパスの実現に努めております。

また、日本工営や三菱UFJ環境財団とともに、SDGs、環境問題などに関する教育を積極的に推し進めております。

また、キャンパス内には多くの樹木が植栽され、大学のみならず、東京都心の中の貴重な緑になっておりますけれども、毎年作られる環境白書や、キャンパスマスタープラン2021にも、生物多様性を重視し、樹木の保存・継承、及び大学のみならず附属学校園においても環境課題の解決へ向けて積極的に取り組む環境マインドを持った人材の育成に努めていることがうたわれております。

また、ゼロエミッションに向けたサステナブルライフスタイルを構築するための研究としては、カーボンニュートラルを目指した新たなライフスタイルへの移行をスムーズに行うことが必須なため、情報実験住宅、Ocha Houseと呼んでおりますけれども、そこでアイデアの実現化を行っているところでございます。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、国際仏教学大学院大学学長、藤井様、お願いいたします。

○国際仏教学大学院大学 皆さん、こんにちは。よろしくをお願いいたします。

本学は、平成22年に虎ノ門からこの春日の地に移転してきました。仏教学を専門とする単科大学院で、5年一貫教育をしております。

学生は1学年の定員が4名ですから、全学生数が全てそろっても20名でございます。現在、16名が在学しています。それに対し、専任教員が6名、非常勤が13名、職員の常勤、非常勤を合わせて30名弱という大変小さな所帯の大学院大学であります。

建物は、本館、研究棟、図書館や学生寮も含めて5棟であります。

さて、このような規模での温室効果ガス削減の取組ですが、率直に申し上げて、できることは極めて限られております。現在の大学の所在地が旧財務省の官舎跡地であったために、敷地内には樹木が多く、大木と呼べるような木も残っております。校舎建築の際、それらの樹木をできるだけ残すような取決めをいたしました。我々全員が人間活動によって排出する炭酸ガスもそれらの木々によって吸収され、カーボンニュートラルになっているのではないかと考えるのですが、これは虫がよ過ぎる話かもしれません。

今、一つ、大学の建物を建設する際に、夏場の建物の温度上昇を少しでも和らげることができるよう、本館の屋上に植物育成のための区画と水流設備を設け、グランドカバープランツを植栽しました。これによって、1度か2度くらい温度を下げられるだろうと期待していたのでありますけれども、とてもメンテナンスフリーとは言い難く、管理に手間がかかり、現在、植物は雑草に取って代わられており、効果が確認できなくなっています。

太陽光発電は、発電パネルの設置場所の確保ができないこと、日照時間が十分に取れないことなどから設置は難しく、また、建物内の照明器具をLED電球に交換することも一度期には予算的に困難であるといったように、これといった取組と呼べるものはできておりません。

ただ、学内の一人一人が心がけていることは、小まめな節電、ごみの削減などでありませけれども、行き過ぎた節制で教育研究活動に支障が出ることは大学の存立意義を損なうこととなりますので、おのずと限界があります。

およそ人間がこの地球上に存在し生きているだけでも炭酸ガスを排出しているのですから、それに産業活動、経済活動もする限り、大量の炭酸ガスが発生します。それを全て吸収し実質的なカーボンニュートラルを実現することはかなり困難なことと思います。

しかし、日本政府は、2020年10月に菅首相がその所信表明演説で、2050年までにカーボンニュートラルを達成すると宣言し、文京区も早くも令和2年に脱炭素のまちの実現を宣言したということですので、脱炭素がこれからの世界の大きな動きとなることは間違いないことでしょう。

本学もアリの一步ではありますが、今後できることから取り組みたいと考えております。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、順天堂大学学長、新井様、お願いいたします。

○順天堂大学 順天堂の新井でございます。本日はこのような機会を与えていただきありがとうございます。本学における温室効果ガス削減の取組について御紹介申し上げます。

まず、学生や教職員の意識改革ということが肝要と思ひまして、本学ではリデュース、リユース、リサイクル、リプレースを4Rとしてこれをスローガンに、学生あるいは教職員の意識改革というのを図っております。循環型のエコキャンパス・ホスピタルを目指しているというところであります。

具体的にはプラスチックを極力削減するというところで、例えば、自動販売機やらコンビニ、あるいは会議に使う飲料水等々、これを全て紙に替えるという取組を今、行っております。

さらに空調の温度設定を変えたり、照明器具にLEDを用いたり、太陽光発電システムを導入したり、そういった取組をさせていただいているところであります。

あと、先ほど、お茶の水女子大の佐々木学長からお話がございました、文科省が設立いたしましたカーボンニュートラル達成に貢献する大学等のコアリション、いわゆるゼロカーボンキャンパスワーキンググループに参画して、様々な大学との情報交換を通じて、私どものところで取り入れることができるいろいろなアイデアを模索しているところであります。

あともう一つ、最後でございますけれども、昨年の12月1日より、本郷・お茶の水キャンパスでは、カーボンニュートラル都市ガスというものを導入いたしました。これは、東京ガスにお聞きしますと、国内の大型総合病院の導入事例としては初といったことでございまして、これによって、まず、本郷・お茶の水キャンパスでカーボンニュートラルを目指し、さらにこれを他の地域にも附属病院、キャンパスがございまして、順次導入して、全学的にカーボンニュートラルを目指したいと思っているところでございます。

私からは以上でございます。ありがとうございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、拓殖大学学長、鈴木様、お願いいたします。

○拓殖大学 皆様、こんにちは。拓殖大学の鈴木でございます。どうぞよろしくお願いたします。

簡単なメモ的なものなのですが、資料を共有させていただいてよろしいでしょうか。

本学、拓殖大学文京キャンパスは、もともと非常に校地が狭いところがございます。そうした中で10数年前に大規模なリニューアルをいたしました。

その結果、御覧いただく大きくAからEまで、大規模な建物としては5つございます。



それぞれについて御覧のとおり状況です。

太陽光発電につきましては、B館という建物。ただ、この建物の中の学生ホールだけが太陽光発電の電気で賄っているという状況でございます。太陽光発電につきましては、先ほどお話がございましたように、設備の設置が、やはり敷地が狭いものですから、これはB館という建物の屋上に設置してございますけれども、なかなかこれを拡大していくことは難しいなというふうにも今、考えています。そういう意味では、非常に僅かな電力を賄っているという状況です。

照明のLED化につきましては、E館という新しい建物なのですが、ここの教室棟は全て、出来上がった当初からLEDで対応しています。このLED化につきましては、やはり一度期にはなかなか全体にというのは難しいものですから、今後徐々に全ての建物に拡充していきたいと考えています。

それから、人感センサーです。これは全ての建物のトイレ、廊下に新たに設置いたしました。

それから、照度センサーです。これもC館、E館という大きな教室棟、ここの教室、廊下はこの照度センサーをつけています。

それから、屋上緑化ですけれども、A、B、C、そして、Eという建物です。D館はもともと古い建物でございまして、そもそもその屋上自体がそうしたスペースをここからつけるといいますか、設備をつけるというところまでいかないものですから、新しく造りました建物については屋上緑化というのでも試みているということになります。

何分、先ほど申したように、かなり限られたスペースのところでも展開しているものから、これらの効果がどの程度かというのはなかなか測り難いところがございます。

一方で、教育面におきましては、お話が出ておりますようにSDGsを教育に取り入れるということで展開しておりますので、学生たちを含めましてSDGsの精神というものは教育の中で植え付けております。そうした意味で、いろいろなリサイクルですとかというところは徐々に学生たちの気持ちの中に浸透していったらいいなと、今、考えておるところです。

簡単ですが、私からは以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、中央大学学長、河合様、お願いいたします。

○中央大学 皆様、こんにちは。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学の動きでございますけれども、昨年4月に多摩キャンパスで供用開始いたしました新しい建物では、多摩産の材木を活用いたしまして温かみのある空間とするとともに、最新のシミュレーションによる最適な温熱環境の実現を図りまして、標準的な建物と比べ、エネルギーの消費を50%以上削減するなど、省CO<sub>2</sub>に資するような自然環境にも配慮してございます。

また、館内の電力、ガス、水道につきましては、リアルタイムの使用量を可視化したモニ

ターを複数箇所に設置し、学生への啓蒙を図ってございます。国交省のサステナブル建物等先導事業につきましては、木造先導型と省CO<sub>2</sub>先導型の両方に採択されております。

また、本学では、来年の4月の供用開始を目指しまして、文京区茗荷谷に新しい建物を現在建築中でございますけれども、それに当たりましては、特段の省エネ対策ということは施してございませんが、例えば、断熱ガラスの使用でありますとか、効率運転を可能とするエアコンの導入、あるいはセンサーつき照明の導入等、通常の最近の機能性を備えた施設を導入するということで省電力に努めているところでございます。

また一方で、そういったことであれば、文京区におけるCO<sub>2</sub>削減の貢献が十全ではあるとは言えませんので、例えば、今後の話でございますけれども、区民ですとか子供たちに対しまして、温室効果ガス排出に関する専門的な知見を共有していこうという機会がございましたらば、本学の教員に協力をいただくといったことも検討させていただきたいと考えてございます。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、筑波大学学長、永田様、お願いいたします。

○筑波大学 筑波大学の永田です。

カーボンニュートラルに関する取組ということですが、最初に、SDGsも含めた全体像として、『Times Higher Education』のインパクトランキングというのがあると思いますが、そのトップセブンの大学の中に今、筑波大学も入っています。

それから、国全体では先ほどから出ていますコアリションでは東京大学をはじめとする他の6大学とともに、皆さんで同じプラットフォームの中で考えるというものにも参加しています。

本学の特徴としては、グローバル・コンパクトという、日本の大学で最初にそれに入った大学だと思いますけれども、これはSDGsから一歩進んでESG（エンバイロンメントとソサエティーとガバナンス）を考えるプラットフォームに入って活動しています。

とりわけて、カーボンニュートラルを取ってみると、大学が貢献できる場所というのは世界レベル、国、地域、あるいは企業やキャンパス、あるいは家庭や個人レベル、いろいろなものがあると思うのです。国や世界ということで考えてみると、水素の固定、それから水素をいかに使うかという研究、それから核融合を含めた研究などが考えられます。社会実装ということを考えてみると、国や地域、特に地域が大変重要であり、地域との協力なしにはできないということです。つくばでは、実は、もう15年ほど前に3Eフォーラムというのをつくりました。エコノミーとエナジーとエンバイロンメントについて考えるプラットフォームで、昨日もその総会があったところです。

地域でさらに大切だと思うのは、スマートシティなどを通じてそのまち全体のエコ化というのが大変重要だと思いますし、教育においても地域とともに教育を進めていくということにより、結局、最終的には個人や家庭生活にも影響を与えるのだと思っていて、い

ろいろな試みを行っています。

以上です。ありがとうございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、貞静学園短期大学学長、奥様、お願いいたします。

○貞静学園短期大学 貞静学園短期大学の奥です。よろしくお願いいたします。

本学は、文京区で唯一の短期大学のみの大学で、なおかつ、小規模短期大学で、施設設備が整っているわけではありませんので、大それたことはできないのですが、大学内でできる身近なところから取り組んでいくことを考えて、以前から取り組んでいるもののほかに、2015年度から実施できる項目を増やして、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

例えば、照明関係では、全館で電灯間引き点灯をし、各教室に節電の掲示をして、教室を使用しないときは必ず電気を消すという消灯を全教職員、全学生が実行しています。

また、トイレには人感センサーを設置し、通常は電気をつけないということでやっております。

また、空調機の温度適正管理、夏は25度から27度、運転時間の短縮、使用しないときは停止を徹底し、教職員は、夏期はもちろんクールビズを実施しています。

冬期なのですが、去年、今年はコロナ関係で、全教室、全研究室、全事務所で全開にしてやっておりますので、なかなか温度適正管理というのは、去年、今年はちょっとできかねております。

また、OA機器の節電で、学校が開いているときは絶えずスリープ状態にして、使用するときのみ電源が入るようにしています。学校を閉めるときはもちろん消しています。

エレベーターは基本的に来客のみの使用で、これは4階だからできることだと思います。教職員は何らかの都合で利用する場合を除いては使用せず、学生は階段の利用ということで運転規制をしています。

会議資料は全部電子化し、コピーや印刷用紙の削減を励行しています。

使わなくなった教員の教科書や、失敗紙等の古紙のリサイクルもやっております。

また、管理関係では、職員の残業節減、夏期、冬期は大学内の一斉休暇を実施し、コンビニや飲物の自販機を一斉に止めて、大学を閉館し、電気料、水道料等の節減をしています。

ごみは分別を徹底し、ペットボトル、缶、瓶を分けてリサイクルに出しております。

CO<sub>2</sub>の排出量ですが、過去3回のデータを調べました。2年ないしは3年に1度調べています。2015年度はCO<sub>2</sub>の排出量、単位がt-CO<sub>2</sub>ですが、排出量が140でしたけれども、2017年度には120に減り、そして、2020年度には90まで減っています。徐々に数値が減ってきていることが明らかになっています。

また、SDGsですが、これは大学として既に取り組んでいます。例えば、オレンジリボンの社会の健康的な平等生活、3番に該当するかと思いますが、そういったものは既に実施しております。また、全教職員、学生が意識を高めるために、昨年は2回、外部から講師

を呼んで実施し、内容と目的を理解してどのように温室効果ガスにつながるのかを勉強して、今後、取組に広げていこうと考えております。

本当に小さなことですが、その小さなことを微に入り細に入り実施を徹底していこうということで取り組んでおります。

以上です。

○アカデミー推進部長 ありがとうございました。

続きまして、東京大学総長、藤井様、お願いいたします。

○東京大学 東京大学の藤井でございます。

私は、昨年4月に総長に就任いたしました。東京大学の新たな行動計画として、昨年の9月末にUTokyo Compassを発表いたしました。このUTokyo Compassでは、人類社会が直面する地球規模の課題に対して、東京大学が有するあらゆる英知を結集して、解決に取り組んでいこうと記しています。

ここにいらっしゃる皆様はご存じのように、東京大学は都内で最も二酸化炭素を排出している事業所です。これまでも、2008年にサステイナブルキャンパスプロジェクトを発足させるなど、温室効果ガスの排出削減に取り組んでまいりました。その取り組みはこれまでに一定の成果を上げてきたと言えるのですが、その試みは主として、キャンパス内の建物の電力使用量の削減といった形で、個々の問題に個別に対応してきたものでした。しかし、大学というのは多岐にわたる活動を展開する非常に大きな事業所だと考えますと、その取り組みはやや限定的にならざるを得ないと感じていたところです。

これに対して、UTokyo Compassでは、温室効果ガスの排出削減をより広く捉えて、人類の共有財産である地球環境をよりよく管理して、将来世代に引き継いでいくための社会の変革、グリーントランスフォーメーション（GX）を促すことを目標としています。このGXへの取組の一環として、本学は、これは国連の気候変動枠組条約による国際的なキャンペーン、Race to Zeroの大学のグループに、日本の国立大学としては初めて、国内の大学では2番目に、参加をするということにいたしました。

参加を通じて、東京大学は、排出実質ゼロへ向けた具体的なロードマップを策定し、その実現のために必要な制度や政策手段などを明確にしていこうとしています。

また、東京大学がカーボンニュートラルを実現するには、教職員はもとより、学生も含めて一人一人が意識を変えて多様なアプローチを進めていくことが必要だと考えております。

さらには、この地球規模課題については東京大学のみで取り組むのではなく、学内外の多様な方々との対話を通じて、解決に向けて取り組むべきと考え、具体的に動き始めております。

例えば、一つは、国内の企業と連携する取組として、参加企業13社とともに日本の温室効果ガス排出量実質ゼロへの道筋を描くための産学連携プラットフォームETI-CGC、エナジー・トランジション・イニシアチブを、昨年11月に立ち上げております。

同様に、本日の議題にもなっておりますように、この課題に取り組むに当たっては、文京区という地域としての連携もまた大変重要だと考えております。

この点については、成澤区長とも何度かお話しさせていただいておりますが、文京区内は19もの大学がそれぞれに対策を講じておられることが、ここで共有されています。まさにこうした対話の場を通じて、相互の信頼や情報共有を深めていき、それぞれの大学の強みや特性を生かした活動を展開していくことが、脱炭素のまち文京区の実現に向けて極めて重要であると考えております。

ぜひそのような形で、地域が直面する課題に対して、19大学の皆さんと一緒に取り組ませていただきたいと思いますし、文京区との連携を具体的に進めていければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、東京医科歯科大学学長、田中様、お願いいたします。

○東京医科歯科大学 東京医科歯科大学の田中でございます。

私どもも環境マネジメント基本理念というのを定めておりまして、「地球環境問題等の解決のために、本学における教育、研究、診察などあらゆる活動を通じて、環境保全と環境負荷の低減に努める。特に温室ガスの削減を推進する」と定めて、取組を推進してきました。

病院を持っている大学なので非常に環境負荷が大きいのですが、そうはいつでも、なるべく大型電源の設備の更新や空調設備の効率化を図っており、大分削減が進んできております。

それ以外にも自然エネルギーの活用という、あるいは資源の節約ということで、お茶の水の地にありますので地下水、お茶の水を使って、水資源の使用量の約60%は地下水になっております。

今、藤井学長がおっしゃられましたように、一つの大学でできることは限られていますが、なるべくいろいろな大学と協調してと考えておりまして、脱炭素化を目指して千葉商科大学が代表世話人となって設立した「自然エネルギー大学リーグ」というのがありますが、文京区では本学のみだと思っておりますが、そこにも参加させていただいており、それから、先ほどから出ている大学のコアリションにも参加させていただいております。

今後なのですけれども、今日もいろいろ他大学の学長の話を押聴していて非常に参考になることが多かったので、19大学といろいろな情報交換をしながらさらなる取組を推進していきたいと思っております。

また、設備や施設の管理だけではなく資源の有効活用という意味で、インフラの長寿命化にも今、取り組んでいる次第です。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、東邦音楽大学・東邦音楽短期大学学長、三室戸様、お願いいたします。

○皆様、こんにちは。東邦音楽大学・東邦音楽短期大学学長の三室戸でございます。

我々の学校は音楽ですので、教室等が細かいところがあったりいろいろいたしますので、この建物につきましても音を出さないということもありまして二重窓をやっているところとか、それから、教室の冷暖房について、外気との熱交換をするために、熱交換器の換気扇を用意したりなんかして、室内のほうは夏冬とも冷暖房が快適に効くようになっております。また、そのような器具につきましてもリニューアルをしまして、省エネ空調ということをやっております。

それから、LEDも、これはまだ23%ぐらいなのですが、これも順次進めているところでございます。

あとは、室温28度設定、空調管理の可視化ということとか、厨房器具とかいろいろな器具についても省エネを図っていると。

それから、そのような照明とか水道の節水ということの標語をつくってやっております。

それから、エレベーターについては2アップ3ダウン運動という形で、なるべく階段を利用するよというのをやっております。

それから、SDGsにつきましては、国連ユネスコの機関の松浦晃一郎先生と城之内先生等で、この辺のところでSDGsの実践を行っております。

小さな大学ですが、一生懸命やっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、東洋大学副学長、川口様、お願いいたします。

○東洋大学 学長の矢口に代わりまして、川口が御報告申し上げます。

失礼ながら、画面の共有をさせていただきます。

まず、こんな沿革、概要などをちょっと作ってみましたが、この中で申し上げたいことは唯一、一番最後のところにあります文京区の白山キャンパス、こちらに学生が2万人ほどいますということです。その意味では、非常に大きなマスになるかと思ひまして、本校の取組はかなりマスとしてはインパクトがあるのではないかと考えております。

続きまして、これもSDGs関係の沿革ということで少し示しておりますが、これも申し上げたいことはただ1つ、本校は130年前からSDGsを推進していますというキャッチフレーズで申し上げます。いろいろなことを昔からやっております。そうはいいまして、現代版に直すために、今年度ですが、学校法人東洋大学SDGs行動憲章というものを制定いたしました。広く学内に周知し、より一層の活動を推進するということを進めております。

温室効果ガス排出の削減に関しまして、具体的な取組をここにまとめました。

まず、省エネルギー活動、あるいは蛍光灯のLED化ということを中心に進めております。例えば、太陽光発電、あるいは屋上緑化というものも小規模ながらやっております。

これらのことを取りまとめますと、東京都環境確保条例の削減義務というのが大規模事業所にはかかっているのですが、これに対しまして、2024年度末までに2000年の27%削減、これが一応義務としてかかっているのですが、こちらはこのような地道な取組ですけれども、それで達成の見込みであります。

ただ、その次の第4期と言われている5年間なのですが、2029年度末までには35%削減しなさいということになっておりますが、これに対しては今の延長線上ではちょっと無理なので、別のことを考えなければいけませんということが既に上がってきております。こちらは、今、対策を考えているところでございます。

そして、文京区内の大学連携の推進ということで、現在、少しお話、協議させていただいていることを1つだけこちらに御紹介申し上げます。カーボンニュートラルに関しまして、学生を主体とした大学連携で取り組むということがいいのではないかと考えております。現在、東京大学副学長の久保先生、日本薬科大学の都築先生と、これはまだ公式レベルというか本学の中では半公式なのですが、このような取組ができないだろうかということで協議を進めております。

では、学生中心で何をやるのだということですが、これは大規模な装置の開発とかはできませんので、ターゲットとしてはフードロス対策というものを中心に考えております。なぜこのフードロス対策がカーボンニュートラルにつながるのだ、あるいはその具体的な取組はどういうことなのかということは、勝手ながら、この後のほうで御発言いただきます日本薬科大学の都築先生が非常にきちんとまとめてくださっていますので、そちらのほうを乞う御期待ということで、本学の報告を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

○アカデミー推進部長 ありがとうございました。

続きまして、東洋学園大学学長、愛知様、お願いいたします。

○東洋学園大学 東洋学園大学の愛知でございます。

本学の省エネ対策の実績ですが、新しいほうから言いますと、2020年にキャンパスは全部LED化を完了しております。

それから、その1年前ですね、古い校舎がありまして築40年ほどですけれども、そちらを中心に窓の断熱を上げたいということで遮熱フィルムを貼るという取組をしてみました。

並行して、省エネのコンサルを導入しようという計画だったのですが、残念ながらコロナ禍になってしましまして、その計画は今のところ頓挫しております。

何をやろうとしていたかということ、今の時代には逆行してしまうのですが、換気をどこまで抑えられるかみたいな取組をしようとしていたので、仕切り直しになりました。

本学では、皆さんのところも当然そうだと思いますが、換気を強化する方向でこの2年間やってきていますので、その分、エネルギー効率が落ちています。本学では、4分の1

から5分の1程度は空調機器に熱交換器がついているのですけれども、その比率をどうやって上げていくかということのをこれから考えていきたいと思っております。

グリーンエネルギーの導入についても2～3年前から検討はしておりますが、まずはどこまで省エネができるかということのを先に。例えば、1割から2割の省エネができれば、1割から2割高いグリーンエネルギーが買えるかなといった感じで、今後、取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、日本医科大学学長、弦間様、お願いいたします。

○日本医科大学 日本医科大学の弦間です。よろしくお願いいたします。

私どものところだと病院を抱えておりますので、やはり環境にはかなり厳しい状況があり、それなりに、皆さんが先ほど言われたような努力をしています。

施設面においては、ダウンライトのLED化、共用部分に関する自動点滅器、モニターなどによる電力の見える化、階段等についての自動減光機器。

設備としましては、電力ピークカット等の、要するにあの熱に関する蒸気・温水への利用、それから、冷却器などの温度低減などを行っています。

また、運用面としましては、照明のヘッドスイッチ等の努力の啓発、一部エレベーターの使用禁止や、廊下の照明の消灯などを行っています。

うちが少し違うのは、ちょうど新病院ができて外構工事等緑地を今までの何倍も造っております、その代わり地下は最大のところで5階という形の病院を造っております。緑地は増やすことができたと思っております。

この話をするときに、文京区との連携についてもというお話をおっしゃられていたように思うのですけれども、私ども、他の医学系大学も同様に、去年、これからの関してもやはりコロナでの行政との連携というのは今まで以上にしていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたしますと思います。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、日本社会事業大学学長、横山様、お願いいたします。

○日本社会事業大学 横山でございます。よろしくお願いいたします。

本学は、1946年に国からの委託を受けて、日本初の社会福祉士とソーシャルワークの専門教育機関として設立されました単科大学でございます。

今日お話しするのは2点でございます、文京キャンパスの本学における位置づけと、文京キャンパスにおける取組施策についてお話をさせていただきたいと思っております。

本学は、清瀬市の清瀬キャンパスと文京キャンパスの2か所に拠点がございます。メインは清瀬キャンパスでございます、文京はサテライト的な位置づけです。そのため、事務職員の配置も必要最小限度の人数、2人にしています。そして、稼働状況としては、コロナ前でも1か月平均して事業が50回、福祉関連団体への貸出しが8回程度でございます。



た。コロナ禍においては事業が20回、貸出しが2回程度と。また、土曜日以外の曜日の17時以降は必要な場合に限り開館していると。だから、夜は通常、閉館しているということです。今、お話し申し上げたのが文京キャンパスの位置づけでございます。

文京キャンパスの取組施策といたしましては、環境関連では3点やっています。省エネ取組と、廃棄物の分別と、禁煙ということでございます。

省エネの取組につきましては、先ほどお話し申し上げましたように、必要最低限の開館にとどめています。開館時においては使用していない教室、トイレ、昼休みの消灯、PCのスクリーンセーバーの徹底的な小まめな実施、照明のLED化と間引き、空調の設定温度は既に御報告もあったと思うのでございますが、環境省の基準どおりの設定で、夏が28度、冬が20度としています。そして、クールビズを推進しております。これが省エネ取組施策でございます。

あと、廃棄物の分別の徹底としては、可燃物と不燃物、ペットボトル等で徹底を行っています。ポスター掲示等による分別の徹底もしています。

そして、全館禁煙で行っている。

以上でございますが、文京区様との本学の連携実績というのは、全19大学が参加している以外では、「6 福祉（15事業）」のうちの1番目の取組だけでございます。できましたら、もう少し本学の福祉の力を文京区と連携して地域の皆さんに貢献できないかということを考えてございます。

さらに、環境だけの問題ではなくて、環境と福祉の融合という観点で環境問題について考えることも重要なのではないか。すなわち、単身高齢世帯の消費電力や、様々な環境への負荷が非常に多いという点での環境と福祉の様々な施策について、文京区様と御一緒に何かできないかと考えてございます。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

○アカデミー推進部長 ありがとうございました。

続きまして、日本女子大学学長、篠原様、お願いいたします。

○日本女子大学 日本女子大学の篠原でございます。

私どもは、昨年、120周年を迎えまして、それに合わせて大規模な目白キャンパスの再整備を行いました。それをコンセプトとして、目白の森のキャンパスというのが幾つかのコンセプトのうちの一つで、できるだけ元々建物が建っているところに建てるということなので少しやりくりが大変だったのですが、既存樹木を残すということをいたしました。コンパクトなキャンパスで、かつ、目白通りと不忍通りに分断されているのでなかなか困難なことではあったのですが、特に目白通りは緑がつながっておりますので、今回の計画でそれが分断されることがないように、緑の連続するような景観をつくらうということで再整備いたしました。

もう一つは、できるだけ低層に建築を抑えるということでございます。もちろんバリアフリーの観点から、エレベーターは全部ございますけれども、主要動線を徒歩で移動でき

るという計画にしております。

それから、高層とせず低層に抑えることで窓を開けることができる。もちろん高層でも窓は開けられますが、開けると強風が入ってまいりますので、なかなか室内環境を保ちながら窓を開けることができないということで、低層に抑えてエレベーターを使わず、窓を開けて換気ができるという建築にしております。

ただ一方で、全部の建物が新しくなったわけではなく、戦後間もなくにできた建物がまだ生きておりますので、そうしたものの断熱性能というのはやはり大きな問題です。耐震性能については、その基準を満たしていないと補助金がついて耐震性能を上げるということになるわけですが、カーボンニュートラルに関して言うと、建築物省エネ法が直近改正されましたけれども、それに合っていないからといって助成金が大きくついて、断熱性能を上げる改修ができるということはないのです。私は建築が専門なので、色々みていますが、ドイツの建築の壁厚というのは断熱も含めて大体40センチメートルぐらいあるのが、日本ですと大体その半分ぐらいでございますので、既存の校舎建築物の断熱性能、環境性能を上げていくということが、一つ非常に大きな課題であろうと認識しております。

そのほかは皆様が御指摘なされたLED、これは古いものはもちろんLEDでなかったもので順次LEDに替えていっております。

それから、東京電力から変更いたしまして低炭素電力を使用し、今後もさらなる再生可能エネルギー源の導入を検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、日本薬科大学副学長、都築様、お願いいたします。

○日本薬科大学 日本薬科大学の都築でございます。資料を共有させていただきます。

日本薬科大学で取り組むカーボンニュートラルということでお話をさせていただきます。

まず、直近の文京区さんとの取組についてお話しします。日本薬科大学は、文京区湯島、湯島天満宮のすぐそばにキャンパスがございます。これまでに文京博覧会、アロマセラピーの専門家、うちは漢方の専門家であったり、お医者さん、学者が多いので、いろいろな形で、予防であったり健康であったりそういったところのコンテンツを地域に生かす取組をしております。今年度はオレンジデーキャンペーンであったり、各種公開講座、対面のできる限りにおきましては今の世相に合った活動をしているというところになります。

今回の二酸化炭素削減というところなのですが、カーボンニュートラル、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させるということなのですが、私どもは薬学部の単科大学ですので全く関係ないのではなかろうかと私は考えておりました。日本薬科大学は、一昨年度、日本でコロナ禍において全学オンライン授業を日本で一番最初にやりましたので、たまたま昨年11月、東洋大学さんのほうで教育DXということで私が講演させていただく機会がありました。そのときに、先ほどお話がありました川口副学長から、カーボンニュートラルについて一緒にやろうという御提案をいただきました。私はそのときに同じように、関係

ないのではないかという話をしたら、そんなことはないよというお話をいただいております。

何に関係するのかということで、『DRAWDOWNドローダウンー地球温暖化を逆転させる100の方法』という本を紹介いただきました。これは非常にいい本なのでお勧めしたいのですが、この気候学者が世界の様々な論文を見た中で、カーボンニュートラルを解決するいろいろな施策の中で一番大きいのは、実は先ほどから話が出ています節減だったりいろいろなことがあるのですが、まずは冷媒ですね。冷蔵庫であったり空調の問題。これが非常に大きいです。

そして、2番目が風力発電。

3番目、4番目は、実は食物ロスであったり食品の問題であるということがこれに丁寧に書かれているのです。これならできるのではなかろうかということで、いろいろそこから勉強しました。

そうすると、御承知のとおり、ウシ由来の温室効果ガスというのはメタンガスだったりいろいろな問題で、かなり温室効果ガスの増加に貢献しているということで、12月、川口先生とちょうど東大の同級生でいらっしゃった大久保副学長、私も東大の農学部出身なのですが、それぞれ地域貢献の責任者ということで、文京区を舞台としてカーボンニュートラルの連携を始めようではないかということで、非公式な意見交換を始めました。

そうしたら、たまたま今回の文京区内の大学学長懇談会がカーボンニュートラルというテーマだったのですが、そのときの話でいきますと、各大学の特徴を生かそうではないかと。

東洋大学さんは、先ほどお話がありましたとおり、文京区内のキャンパスで学生数が最も多い。ただ、もっともっと学生たちの積極性を伸ばせないものだろうか。

それから、東京大学さんのほうはUTokyo Compassということで藤井総長が、私もこれを熟読していますけれども、UTokyo Compassの様々な取組、文京区のカーボンニュートラル政策にも共感を覚えておられるということ。

そして、なぜ私どもが指名されたかといいますと、日本薬科大学は埼玉にもキャンパスがあるのですが、『日経グローバル』で埼玉県の取材では地域貢献ランキングナンバーワン、それから、自治体実績も全国の薬価大学で一番多いという、そういったノウハウやスピード感に期待いただいたと思うのですが、一緒にできることからやろうではないかというお話をいただいたところです。

ただ、食品ロスといっても、私たちは食であったり栄養の専門家ではないので、専門家にちゃんと聞こうではないかということで、私が親しくさせていただいています女子栄養大学の香川学長・理事長に相談にいきました。そうすると、一から教えるよということで、この『食品ロスをなくそう！』という、これは埼玉県が出しておられる冊子になります。本来食べられるのに捨ててしまっているもの、こういうのも含めて大学として、これは全大学なのですけれども、食堂があれば、仕入れ、保存、調理、特に薬科大学ですのでスパ

イス、ハーブの専門家がいるでしょうと。薬科大学らしい食品ロス削減もできるのではないのという御提案をいただいたところです。

そこで、本学としては学生食堂で直営でやっているのも大きいのですが、食品ロス削減の方針、まずは啓蒙ですね。他人事ではなく我が事として捉え行動に移すということで、メニューであったり記録であったり、全教職員、学生で取り組むのだよという方針を策定いたしました。

これは具体的な例なのですが、どうしても食材が余ってしまうということで、野菜、こういった大根の葉とかをかす漬け、マリネに使ったり、余った大根の皮とか人参の皮をきんぴらにして冷凍保存したり、こうした可食部の利用を行ったりしています。

それからもう一つ、植物性食品の利用というところでは、東洋大学さんの陸上部は箱根駅伝等で有名ですが、この陸上部の監修をしている元女子栄養大学の今井菜美先生が日本薬科大学におられますので、代替肉を開発している会社さんとかと、これだけだとその会社の商売を手助けするだけですので、本学に麹菌の有名な研究者がいるということで、そこに麹を混ぜまして、こういったものを文京区内の大学食堂や飲食店さんに監修できないものだろうかといったことも考えているところです。

これが最後でありますけれども、私は今は「now or never」ということで、カーボンニュートラル、これだけ企業であったり自治体さんであったり取り組もうとしている機運というのはなかなかないと思います。学生や教職員への啓蒙、これは先生方がおっしゃるとおりだと思います。使用電力の削減、本学も21.5%前年比で削減していますが、これは何人かの先生方からありましたとおり、コロナ禍で学生がキャンパスに来ていないという効果も大きいかなと思います。

それから、これは結果論なのですが、自治体さん、企業さんからたくさんお問合せをいただくのが、メガソーラーであったり太陽光発電の問題がたくさんあるのですが、このパネル下で栽培できる薬用植物の指導、監修をしてもらえないだろうか。

これはちょっと具体的に御紹介しますと、薬用ニンジン、高麗ニンジンです。これは直射日光を非常に嫌うのです。ところが、日差しが直接なければ、4年、6年たつと、薬用植物の王様と言われていきますから、こういったいろいろな作物、植物を指導、監修することもできるだろうということを考えているところです。

先ほど、成澤区長から、区内の最大の産業は大学であるというメッセージをいただきました。大学があるということは、そこに学生たちが生活しています。彼らは今、社会貢献の意識とか、SDGs、世のため人のためになりたいという気持ちを非常に強く持っております。それらが結集しまして、また、大学のエゴになってはいけないので、区長の方針、それから、区役所の方々の方針に寄り添って、文京区のさらなる活性のために御一緒できるアイデアがあればいただければと思っております。

今日はオンラインでございますが、また対面で区役所のほうにお邪魔しながら、こういった政策と一緒に意見交換できればと思っております。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございました。

続きまして、文京学院大学学長、櫻井様、お願いいたします。

○文京学院大学 文京学院大学の櫻井でございます。

本学でも以前より積極的な節減活動を行ってまいりました。

具体的には、先ほどからありますように、照明器具のLED化、そして、人感センサー化、また、古い空調機の省エネルギー製品、高効率エアコンなどへの更新を行うと同時に、いわゆる運用管理を徹底することで電気の使用量の削減ということを行ってまいりました。

特に、夏期、冬期については電気の使用量が増加することから、一定の期間、節電協力要請期間というものを設けて、その期間については特に学内でその旨を掲示して、また、掲示するだけではなくて、例えば、具体的に授業終了時には教員自らが空調、照明のスイッチを切ると。あるいは、エレベーターについては3ダウン2アップ運動を学生に徹底をし、教職員を含めて階段を利用していたということもやってまいりました。

これらが功を奏して、毎年、電気の使用量は確実に着実に減少しております。

このほか、教育面でも、本学では人間共生論や地球環境論などを大学特別科目として必修科目としたりしながら、学生にできるだけ多くの意識を変えていただくということで、こういう授業を設定しております。

特に、地球環境論では、15回の授業の多くを温室効果ガス削減に関する内容という形で、学生に対する意識の向上、あるいは生活スタイルの改善というものを促しております。

また、本学の建学の理念である「自立と共生」に基づく共生社会の構築を目指す実験空間として、本学ではまちづくり研究所を造っております。その研究所を中心にいろいろなプロジェクト演習を実施しております。

その一つをちょっと具体的に御紹介させていただきますと、例えば、脱プラスチック、温暖化抑制として、廃棄ビニール傘の再資源化プロジェクトを実施いたしました。これは、学内で廃棄されたり忘れ物として届けられた傘をグループ、具体的には学生支援グループと協力して回収し、大体年間で100本を超えるような回収がありますけれども、それをリサイクル企業、加工工場などと連携して、傘カバーの商品化に取り組みました。最終的には使い捨て商品をゼロとする環境配慮型社会の創造を目指す取組ですので、例えば、文京区に支社を持つ企業さんたちと連携しながら行ったプロジェクトです。

学生は大学生500名へのアンケート調査を実施したり、あるいは文京区で行われましたエコ・リサイクルフェアに出展した際に区民の方々からいろいろなアイデアをいただきまして、それを参考に最終的には再利用商品に傘カバーを選定し、現在、試作品が出来上がっておりますのでございます。

ただ、このプロジェクトの最終目標というのが、学生だとかあるいは区民の皆様にも脱プラスチック化ライフスタイルを強めていくということにありますので、その傘カバーにはQRコードをつけております。そのQRコードを読み取ると、このプロジェクトの概要を紹介

介するツイッターなどにリンクさせるという取組がなされております。

このほかにも、例えば、漂流漂着ごみの削減だとか、あるいは打ち水マップですね。環境によって打ち水の仕方が効果的かどうかというのはいろいろあるものですから、そういう調査をしながら、例えば、できれば、文京区での打ち水イベントも検討しながら進めたいと思っています。

このような形で、施設、あるいは教育の中でできるだけ多くの意識改革をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○アカデミー推進部長 ありがとうございます。

続きまして、放送大学学長、岩永様、お願いいたします。

○放送大学 放送大学長の岩永です。

本学は、文京区の中の全19の大学、短大の中でも、唯一と言っていいと思うのですが、通信制の大学で事情が大変特殊であります。文京区の中にお邪魔している部分も非常に少なく、先ほど、永田先生から筑波大学の取組という話がありましたけれども、その茗荷谷キャンパスの建物のワンフロアを使っているという状態なのです。したがって、そもそも排出ガスに関して多くのものを出していないので、その建物の中で行われている様々な省エネですとか、それから、脱炭素の試みに最大限協力するという形で参加させていただいているところです。

設計上、2階部分を使わせていただいているのですけれども、そこに空中庭園のようなものを造るスペースがありまして、そこで開設の当初、緑を植えたりしていたのですけれども、今はいろいろな手間が大変だということで、なかなかそれがうまく活用できているというふうには思えないのですが、何とかそここのところを活用していくということは考えたいと思っています。

それからもう一つ、本学はキャンパスが、今、私がおりますところですが、千葉の幕張にありますので、あまり文京区さんとの連携とか貢献とかそういう点についてはちょっと筋が違うのかもしれませんが、大学そのものの脱炭素ということについてお話しさせていただきます。

放送大学はそもそも通信制大学だからあまり炭素は使っていないのではないかと思われるかもしれませんが、このコロナの状況の中ではっきりしてきたことは、年間、通年ですと3,000科目の授業を全国50か所、プラス、サテライトスペースもありますので、57か所の学習センター、サテライトスペースで行ってまいりました。これが一時期、全てウェブで行うことになりました。教員もそちらへ行かないことになりましたし、学生さんも自宅から参加するということになって、これはきちんと統計を取っているわけではありませんけれども、恐らくすごい量の節減ができたのではないかと考えております。

フェース・ツー・フェースの授業には面接授業の予算がありまして、これはいい部分は残していかなければいけないのですけれども、考えてみますと、放送大学に入学してこら

れる方、それから、放送大学に対する社会の期待というものを考えてみますと、やはり通信制であることが重要なのだと思います。直接フェース・ツー・フェースで授業をやらなくてもいいというところに大きなメリットがあるということで、今まで私たちはそれほど気にもしていなかったのですけれども、やはり遠隔地にいらっしゃる方が自宅からでも授業を受けられるということをこれからは徹底するべきだろうと考えておりまして、次年度、今年4月からの新しいビジョンの中にはそれを盛り込み、徹底してDX化を図るということを考えております。

これは、我々教員サイド、あるいは事務系のサイドのほうも同じでありまして、何か会議をすると全国から学習センター所長の先生方が集まってくる、事務長さんが集まってくるということを今までやっていたわけですが、その必要があるのかどうかということをもう一度見直すということで、このコロナが収まったとしても、恐らく今までのような放送大学の運営の仕方が大きく変わるのではないかと、いや、変えなくてはならないのではないかと、いや、変えなくてはならないかというふうに今、考えております。非常に大きなエネルギーをそこで使うということを前提として考えてみますと、大きなことではないかと思っております。

あと二つほど。

一つは、今まで多くの学長先生、副学長先生から、研究上でこの脱炭素に貢献するというお話をいただいてすばらしいなと思ったのですけれども、私どもの大学は研究機能という部分が弱く、そういう意味でいうと、その方面での貢献というのはなかなか難しい。要するに炭素の最終ユーザーとしての節減ということを考えていかなければいけないのではないかと、思っているということです。

それからもう一つ、カーボンフリーのエネルギー源ということを考えていきますと、幾つか大きなことがあると思うのですけれども、今、私が背景に使っているのは放送大学を正面から見た図です。これは昨年のもので大きく変わっているところがあるのです。それは、私のちょうど頭の上ぐらいのところに大きなアンテナがありました。放送大学の象徴でもあったのですけれども、通信方法の変更に伴いまして無用の長物になったので、これを昨年11月に撤去いたしました。

そうすると、広大な真っ平な屋上が出来上がったわけで、これを何か使わない手はないなということで、先ほど来、太陽光のお話もありましたので、あるいは屋上緑化というお話もありましたので、何とかこの辺を工夫して少しでも貢献したいなと考えているところです。

ただ、こここのところを一生懸命やっても、恐らく千葉市の空はきれいになるとは思いますが、文京区ということになりますとちょっと筋が違うのかなと思ひまして、その辺は御容赦いただきたいところです。

以上、雑駁ですが、放送大学からのお話とさせていただきます。ありがとうございました。

○アカデミー推進部長 ありがとうございました。

皆様、各大学の特色に応じた様々な取組についてお話しいただき、ありがとうございました。

今後も引き続き、区と大学での情報共有を進めていきたいと思っております。本日、他の大学のお話の中で興味深い取組などがありましたら、ぜひ大学間におかれましても相互に情報交換をしていただければと思います。

区の取組として生かしていくに当たっても大変参考となりました。

本日の懇談会が、「大学における温室効果ガス排出削減」の一層の推進の一助となれば幸いです。

本日の議題は以上となりますが、その他御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、成澤区長より、閉会の御挨拶を申し上げます。

○区長 改めまして、区長の成澤でございます。

先生方には、様々なそれぞれの大学でのお取組をいただいていること、心から感謝を申し上げたいと思っております。

私ども文京区というフィールドの中でさらに取組を進めていただけるように、これからも実務担当者の皆さんたちとの情報連携等を進めさせていただきたいと願っております。

また、それぞれの大学でお取組をいただいているSDGsの教育や、カーボンゼロに向けての啓発活動等を区民に向けても行っていただくことによって、区民の行動変容につながるそのマインドセットにしっかりつながっていただけるように、大学の力もお借りしたいと思いますし、学内の学生さんや職員さんたちも広い意味での私どもの区民と捉えていますので、その人たちとの連携も強めてまいりたいと思っております。

今日のお話の中で御紹介をいただいた、東京大学や東洋大学や日本薬科大学でのフードロスの取組についても、興味のある区内のその他の大学の方に御参加いただくと、さらに裾野が広がってよろしいのかなとも思いましたし、また、学長さんたちのリーダーシップによって、それぞれの大学間のネットワークでの取組は行われているのはもちろんのことですが、文京区という地域でのCO<sub>2</sub>削減の効果が面で見えるように、私どももお声をかけさせていただきたいと思っておりますが、大学間連携でのコンソーシアムのようなものをもしつづけていただくことが可能であれば、ぜひ御検討いただきたいと思いますところですので。

ゼロカーボンシティに向けて我々も歩みを進めてまいりますので、引き続き、区内最大の産業である大学の皆さんたちのお力をお借りさせていただくことをお願い申し上げ、本日の御協力に感謝をして、閉会の挨拶にしたいと思います。

今日はありがとうございました。

○アカデミー推進部長 以上をもちまして、区内大学学長懇談会を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。